

土砂災害警戒情報について

大雨警報の発表中に、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象台から共同で発表されます。

詳細な範囲については「危険度分布」で確認できます。しかし、特に警戒区域周辺にお住まいの方は、実際の周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、危険を感じたら、迷わず自主避難を行いましょう。



記録的短時間大雨情報について

大雨警報の発表中に、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測された時に、気象台から発表される情報です。

この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」も合わせて確認してください。



顕著な大雨に関する情報について

顕著な大雨に関する情報は、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯（※）」というキーワードを使って解説する情報です。この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

※線状降水帯とは次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。

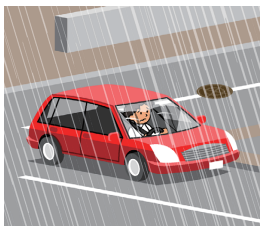
雨の強さと降り方

やや強い雨



10～20mm/h未満
ザーザーと降る。
雨の音で話し声が良く聞き取れない。

強い雨



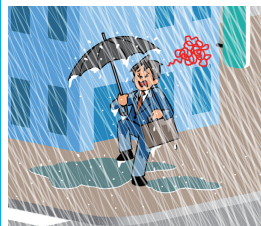
20～30mm/h未満
どしゃ降り。
ワイパーを速くしても見づらい。

激しい雨



30～50mm/h未満
バケツをひっくり返したように降る。
道路が川のようになる。

非常に激しい雨



50～80mm/h未満
滝のように降る。
(ゴーゴーと降り続く)

猛烈な雨



80mm/h以上
息苦しくなるような圧迫感がある。
恐怖を感じる。